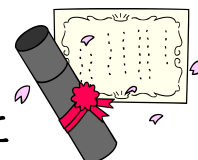


ほなみの風

コロナ禍だからこそ 思いのこもった卒業式に



明日18日は卒業式です。今月1日には、5年生が中心となって「6年生を送る会」がオンラインで開催され、全校で6年生に感謝の気持ちを伝え、卒業を祝う温かな会となりました。また、6年生は冬休み明けから「卒業プロジェクト」を立ち上げ、文集づくりや清掃奉仕等の取組を進めてきました。各学級では、卒業までの日数を表示した「カウントダウンカレンダー」を作成したり、職員一人一人に気持ちのこもった手紙を届けたりするなど、卒業に向けての活動に取り組んできました。中でも、卒業式の練習では、証書授与の所作や「巣立ちの言葉」の発表場面の練習に熱心に取り組む姿が見られ、一人一人の引き締まった表情から、6年生の気持ちの高まりを感じています。

そうした中、先日は本校を数年前に定年退職した職員が学校を訪れ、以前に担任した6年生児童にはなむけの言葉を掛けてくれる場面がありました。学校を離れても、子どもたちのことを思ってくれていることをありがたく思いました。このように、学校では卒業生を送り出すことに特別な感慨があり、6年担任をはじめ教職員は「心に残る卒業式にしたい」という熱い思いを持っています。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染状況は厳しい状態が続いており、学校では、感染予防対策を講じながらの実施方法について、これまで何度も協議を重ねてきました。コロナ禍だからこそ、より一層卒業式に対する思いを強くしているように感じます。

卒業式当日は、感染予防対策で制限がある中ですが、精一杯の気持ちをもって、全職員で卒業生を温かく送り出したいと思います。



6年生を送る会（3月1日）

出し物は映像で映し出しました



卒業式の練習